

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391300102		
法人名	社会福祉法人日岳会		
事業所名	グループホーム 野の花		
所在地	熊本県宇城市小川町南部田597		
自己評価作成日	令和3年 12月 1日	評価結果市町村報告日	令和4年 3月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和3年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりの思いや、ものとのらえ方、考え方、性格をよく知り、その人の意思を尊重したケアを心掛けています。又、利用者様について知り得た情報をスタッフ全員で共有し利用者様が安心・安全に生活できるよう支援しています。ご家族とも密に連絡を取り合い生活の様子をお伝えしています。活動面では現在コロナ禍で、思うように出来ていませんが、施設内で出来る料理教室や、季節に添った制作、季節ごとの行事など、出来る範囲で行っています。利用者さまにとって唯一の楽しみでもある食事は利用者様の好みや季節感を取り入れたメニューで栄養やバランスを考えながら心のこもった温かい食事の提供を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この数年で入居者の高齢化も見られ、介護を要する場面も増えてきたようです。そのような中にも入居者一人ひとりの意向や生活を大切に、傍らに寄り添い共に時間を過ごす職員の皆さんの様子が見られました。季節の食材を使い、栄養を考えながらも入居者の好みも取り入れて提供されている食事は今も手作りで、食事時間は大家族で囲む食卓そのものです。コロナ禍でこれまでのように楽しみ事が制限されていますが、職員の声で「今ここでできること」を考え取組まれています。入居者それぞれの状態の変化やケアの仕方の変更は随時職員間で意見を出し合い話し合いを重ね、より良い生活を考え支援されています。感染症対策にも力を入れ、発生した際には玄関から3つの段階的ゾーンを作ることができるよう対策、2ヶ月ごとにシミュレーションを行われています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のスタッフ会議(勉強会)で理念を読みあげ理念に沿ったケアができていないか再確認している。又、職員や訪問者の目の付く玄関とホールに掲示しています。	玄関とホールに掲示されている理念は、毎月のスタッフ会議で読み上げ共有されている。入居者それぞれの介護計画は理念に通じるものと職員間で共有されており、ケアの基本となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染拡大が懸念され地域とのつながりは困難であった。利用者の日常の活動や状況、施設の感染防止の取り組みなどは、野の花通信をとおして地域の皆様に報告してきた。	地域と入居者・事業所との直接の関わりは現状難しい状況である。事業所の取組み、入居者の日々の様子を伝えるため、隔月発行の通信(野の花通信)を回覧して頂いている。運営推進会議のメンバーである地域役員には事業所・入居者の報告と共に「ご意見等記入用紙」を依頼し、意見等を得る取組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	野の花通信を2ヶ月に1回作成し南部田地区の回覧板に入れてもらい入居者にどのような支援を行っているか知っていただくようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染拡大が懸念され運営推進会議は委員の皆様へ文書での報告を行ってきた。入居者の活動や状態、又、感染防止についての取組みなど文面で報告し、それについての意見など委員の方に求めてきた。	感染症拡大の懸念により運営推進会議の開催は難しい状況であった。会議メンバーには事業所・入居者についての報告等に加え通信を配布、「ご意見等記入用紙」にて意見等を得る取組みを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に支所を訪れている。又、運営推進会議用の文書と野の花通信を通して入居者の活動や状況を報告している。	訪問や日頃の報告・連絡・相談、運営推進会議資料等で事業所の取組みを伝え、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での勉強会はコロナ感染拡大が懸念され資料を配布し個人での勉強会となったが、年に1~2回テーマで取り組まれている。又、月に1回拘束廃止委員会を母体施設で行い身体拘束についての弊害を理解し職員一同、拘束のないケアに努めている	法人全体で毎月拘束廃止委員会が開催されており、事業所からも参加している。委員会資料は事業所の全職員にも配布し、理解を深め共有している。事業所内での勉強会も年間研修予定に取入れられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をテーマにした勉強会を定期的に行い虐待防止に努めている。又、管理者は常日頃から職員の表情や入居者に対する態度・対応など目視し虐待につながらないように注意している。		

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実践者研修などで学んだ資料を皆で共有し勉強会をとおして学ぶようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に十分説明した上で疑問や不明な点などないかその都度確認し、わからないことがあれば、理解・納得ができるまで説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会制限がかかり、思うようにご家族との接触もできず、年1回の家族会議も中止になった。ご家族との意見交換はなかったが、定期的に電話で入居者の状態を報告しご家族に意見を求め今後のケアに反映させた。	感染症拡大の懸念により昨年より面会が制限されたため、入居者家族へ日頃の情報報告が主となった。殆どご家族が月1回程度届け物等で訪問されることから、職員と会話の機会を持ち、意見・要望等の確認をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回スタッフ会議・勉強会を行っており、職員の意見やアイデアを出し合い討議し反映させている。又、解決が難しい事に関しては母体施設で開催されるリーダー会議に持ちかけ検討している。	毎月の職員会議だけでなく、管理者も日々ケアに入っていることから職員はいつでも管理者へ意見等を伝えることができる。会議等を利用して意見に対する解決案等を話し合い、必要であれば管理者から法人へ持ち込まれ検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が向上心をもって働ける環境作り、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を見極めその人に合った研修や資格取得を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、研修会、勉強会もオンラインとなり同業者と思うような交流は難しい状況であるが研修会で学んだ事を職場に反映しサービスの質野向上に努めている		

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームに馴染むまでは接する機会を多く持ち、本人の気持ちや困り事、不安感・要望などに耳を傾け、得た情報を職員一同で共有し、本人への対応を考え安心した暮らしができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの情報や要望、困り事を聞き利用者への対応を考え実践し、それによって利用者がどのような状態になっているか常に報告しながら、ケアの方向性をご家族と話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族としっかり話しどのような暮らしを求めているのかを見極め、その暮らしに近づけるにはまず何が必要なのか考え、実践に移す前に家族に意見を聞き対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、入居者が出来る事、出来るような事を職員と一緒にすることで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時は家族に電話で状態を報告し、面会制限がなければ来荘の依頼を行った。面会制限中は電話での対応を行った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で感染拡大が懸念されるなか、なるべく他者との接触や外出活動をひかえてきた為できなかった。	敷地内には関連事業所もあり、従来イベント等での行き来もあり交流も行っていたが、昨年からは難しい状況であった。できることとして家族との関係を大切に、工夫しできるだけ面会を受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や相性、習慣など見極め、利用者同士のトラブルが発生しないよう注意しながら、良い関わりができるよう努めている。		

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、本人に必要と思われる支援について、ご家族に情報を与え相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話の出来る利用者に対してはソファや自室でつろいでおられる時に側に寄り添い本人の思いや希望を聞き介護計画につなげている。困難な場合はできるかぎり本人の思いに近づけるよう家族と相談しながら支援している	現状思いや意向を表すことが出来る入居者は半数程度であり、訪問時も職員からの声掛け等の様子がよく見られた。思いを表すことができない入居者にも寄り添い、思いの把握を行っている。介護度が高い入居者には家族にも意向を確認し、本人・家族の意向に沿うケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報提供書やご本人、家族からの情報をいただき把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の表情や行動など常に観察しながら、出来る事が継続できているか把握している。又、毎朝バイタルサインチェックを行い身体状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の話を聞きケアの方向性を見出し、医療面では担当医と看護師、生活面では介護スタッフの意見を聞きながら介護計画を作成している。	日々の記録、入居者・家族、関係機関の意見を取り入れて計画を作成している。3ヶ月の短期目標については職員間で話し合いを行い意見を取り入れている。医療部分は看護師も関わる。生活の上でのケアや手順の変更、症状の変化等は写真に収め、共有し、必要に応じて現状に即した介護計画となるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果・気づきなどは個別記録に記入している。又、ケアの変更や気づき・緊急性のある事柄などについてはグループラインを通して職員全員が早急に把握し意見交換が出来る体制を作っておりスタッフ会議で介護計画を見直す。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関連事業所からの情報なども参考にし取り組んでいる		

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	系列事業所などからの情報を得ながら、出来る範囲の外出活動などで本人が暮らしを楽しむ事ができるように支援している(コロナ禍でなるべく他施設やボランティアなどとの接触は避けている)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	コロナ感染予防で、かかりつけ医への受診は看護師が代理受診し利用者の状態を事細かく伝え医師の指示を仰いだ。又、家族が代理受診される時は先の受診から今回の受診に至るまでの状態を文書にし医師に報告した。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援しており、現状は殆ど協力医の受診である。コロナ禍でもあることから本人の受診の必要性は医師と電話で相談しながらすすめる場合もある。通院は職員介助による。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中での気づきや情報は、どんな些細な事でも看護師に報告・相談し看護師が受診時に医師に報告し適切な看護を受けられるよう努めた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時、病院関係者と定期的に情報交換を行った。今回は退院後グループホームでの生活は困難であろうとの医師の意見を元に、家族や病院関係者と今後の事について何度も話し合いを重ね、本人にとって一番よい選択ができた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期に向けた方針、事業所でできる事の説明を行っている。事前指定書もいただいでおり、対象者が出た場合は早い段階でご家族に状態を報告し、ご家族の意向を確認した上で再度、終末期に向けた方針や施設で出来る事の説明を行っている。	入居者・家族の希望があれば看取りまで受け入れている。その時を迎えた際には協力医・家族とも話し合いを重ね、事業所でできる範囲を伝え、相談しながら入居者の最善を考えた支援を行う。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はマニュアルを作り定期的に確認・勉強会を行っている。又、コロナ感染者が出た時に供えガウンテクニックの実践やゾーニングなども定期的に行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災訓練・年に1回地震・風水害の訓練を行い隣接事業所の協力も得ている。又、法人全体で災害時の対応に関する研修を行っている。(コロナ禍にて資料に基づいて個人学習中)	年2回の火災避難訓練の他、自然災害の訓練も行っている。訓練には入居者も参加しており、水害避難訓練では実際に車を利用して避難した訓練を行った。	

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄面や入浴時など羞恥心への配慮を心掛けて携わるよう努めています。又、法人全体の勉強会でも接遇の研修があり職員一同学ぶ機会がある。(コロナ禍にて資料に基づいて個人学習中)	入居者の高齢化や介護度も幅広くなってきており、それぞれの対応がより必要となってきている。その中でも入居者一人ひとりを大切に、尊重したケアに努めている。具体的な言葉掛けや対応について研修を重ねている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴・食事・生活リハビリ・外出活動・レクなど全てにおいて本人の意思を尊重しながら支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事・入浴など本人の意思を尊重しなるべく本人の希望に添い、本人のペースで過ごせるよう支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝起床後に身だしなみを行っています。自分で出来る方には起床後に洗面台に誘導し、おしゃれを楽しんでもらっている。又、外出時には本人の希望される上着を選び、身だしなみも確認している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや季節感を取り入れたメニューで栄養面やバランスを考えながら食事を提供しています。今現在、利用者の介護度も高くなり一緒に料理をする事は難しいが、定期的に料理教室を行い利用者を交えおやつ作りを実施している	朝・昼・夕食とも職員手作りの食事を提供している。入居者個々の体調等により食事介助が必要であったり食事に要する時間がかかったりと個別対応が必要となってきた。「出来ること」も少なくなってきたが、料理教室として入居者とのおやつ作りや普段からの関わりの場面作りを継続している	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みと栄養バランスを考えた食事を、本人の状態に合わせた食事形態で提供している。又、食事が入らない時はラコールなどの高カロリー食品や果物などで補っている。水分は1日トータルで1200CCを目標にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。自分で出来る方には、準備をしたあと声掛け促し、出来ない方には介助で行っています。又、自歯がある方に対しては、磨きが十分でなければ磨きなおしを行っています。		

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はなるべくトイレで気持ち良くを念頭におき、訴えがない方に対しては排泄パターンを把握し時間や水分量、気温など考慮し誘導を行っている。又、ソワソワ感や落ち着きがないなど、サインを見逃さないようにしている。	日中は出来るだけトイレでの排泄を支援しており、入居者の様子や仕草等により声掛けや誘導が必要な際は、プライバシーにも配慮し個別に対応している。立位保持が難しい状況になってきた際にはおむつ使用の検討を行う。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保と野菜を多く使った料理を心掛けています。水分が入らない方には果物(ミカン・スイカ等)やバナナジュースなどで補っています。又、食後はなるべくトイレに座ってもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	男性スタッフに対しての拒否がある方には必ず女性スタッフで対応し、なるべく本人の希望に添って入浴を行っています。	週2回の入浴を基本としている。同性介助の希望があればできるだけ対応している。この数年介助が必要な場面が増えてきているが、シャワー浴の際にも足浴を行う等、心地よい時間となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の希望や状態に合わせて離床や臥床をしていただいています。又、昼寝が必要と思われる利用者には昼寝の時間を設けるが無理強いは致しません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の現病に伴う内服の種類、副作用や注意する事など職員一同把握し服薬介助を行っています。又、それによっておこる小さな変化や、症状にも注意し、何か変化があった時は看護師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリや制作、学習活動など個々の性格や、持っている能力を活かしながら支援しています。コロナ禍で月1回の外出は出来なかったが、荘内でできる料理教室や運動会など催し気分転換を図った		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で思うような外出や、地域の方とのふれあいは出来なかったが、季節ごとに出かけていた場所へは、なるべくドライブで出かけた。	感染症拡大の懸念から地域行事の開催も減り、関連事業所との交流も難しい状況であったが、外気浴や散歩を生活に取入れ、人込みを避けてのドライブを継続した。	入居者一人ひとりのその日の希望による外出は難しい社会情勢もあります。収束の際は、馴染みの場所等への外出が実現することを願っています。

グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今現在、ご自身でお金を持っておられる方はいらっしゃいません。ホームでお預かりしている方で何か買いたいとの希望がある方にはその都度対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から電話をかけたいとの依頼があればすぐに対応しています。今現在、手紙やはがきを書ける利用者さんはいらっしゃいません。家族が他県におられる所は定期的に電話をかけて会話が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖色系のライトを使用し、ほどよい生活音のする中でリラックスできる雰囲気作りを心掛けています。毎月、季節に応じた制作を目に付く場所に掲示し季節感を感じていただけるよう工夫しています。	日中入居者が集まることも多いリビングは明るい陽射しが差し込み、ソファーやリクライニングチェアでゆったりと過ごすことができる。リビングは食事スペースとは別であり、穏やかな空間である。廊下も広く、車椅子利用者の妨げにならないよう安全にも配慮している。入居者や家族の手作り品等も飾られており、これまでの生活を感じる事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人用のソファーや二人用のソファーを置き自由に過ごせるようにしています。又、性格の合わない利用者同士がトラブルにならないように座る席の配慮を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人を含め、家族と相談しながら、家具の配置や装飾をしています。又、なるべく以前から使用していた家具や生活用品の持ち込みを依頼し、居心地の良い環境作りに努めています。	手洗いが完備されている居室にはそれぞれの家具や生活用品が持ち込まれており、入居者の趣味を感じられる手芸品や陶芸作品等も見られる。居室それぞれに入居者や家族を感じる設えとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場は見てわかるように目印を作り、床はバリアフリーだが、障害物をなるべく取り除き安全に移動できるように配慮しています。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム野の花

作成日 令和 4年 3月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	コロナ禍で面会制限がかかりご家族との接触が少なく、ご家族の意見や思いを聞く機会がなかった為、ケアについての満足度が解らない	ご家族の本音を引き出しよりよいケアを目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月に1度、ご家族にご意見記入用紙を送付し、疑問に思ってる事や不安事などを記入してもらう ・いただいたご意見はスタッフ会議で話し合いケアの質の向上に努める 	12ヶ月
2	48	入居者の高齢化・介護度も高くなりケアがマンネリ化している。又、寝たきりの利用者様の楽しみ事がないように感じる	余暇活動のマンネリ化解消と寝たきりの利用者様向けの楽しみ事をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットで情報を得ながら週間ごとの活動メニュー表をつくり実践する ・寝たきりの利用者様向けに五感を刺激するような活動メニューをつくり実践する 	12ヶ月
3	49	入居者の高齢化や介護度も幅広くなっており、コロナ禍の中、思うように外出支援ができない	状況に合わせて個人単位や全体での外出を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染の状況に合わせて、個人単位でのドライブを企画する ・コロナ収束の際は以前から行ってきた活動を再開する 	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。